

# 会報

2011. 6. 25

第 56号

## 戦没船を記録する会

〒123-0864 東京都足立区鹿浜 2-20-8

篠原国雄方

Tel・FAX:03-3897-6259 郵便振替001606-719615

URL:www.ric.hi-ho.ne.jp/senbotusen/

E-mail: senbotu@ric.hi-ho.ne.jp

## DVD作製本格化へ

### 7月21日に第18回定期総会開催

本会では従来、毎年4月に定期総会を開催して来ましたが、今年は3ヶ月遅れの開催となります。

第17回定期総会方針で「戦没船 DVD作製」事業に取り組む事を決め、6月3日に全日本海員組合藤沢組合長らと本会の川島会長らが協議し、共同事業として取り組むことが決まりました。これに基づき8月30日に双方の実務担当者らが出席して、第一回DVD作製委員会が開催され、双方の役割分担などが確認され、本会の「DVD作製案」が説明されましたが前に進む論議にならないため、次回までにシナリオ原案など、具体的な文案を用意すること、次回は海員組合の定期全国大会後の11月30日にする事と決めました。(以上、会報55号既報)

しかし11月30日の委員会に本会の具体案を提案することが出来ず、次回委員会を3月初旬とすることだけを決めました。本会DVD作製委員会は、2月17日までに各人がシナリオ原案を作製しこの日の会議で集約、3月14日の本会DVD作製委で更に検討の上、成文を作り上げるとの目標を決め、海員組合にも3月初旬の会議延期を申し入れました。

2月17日までに原案が出来たのは1件だけ(篠原案)、この案に各人が意見を付したり、書き直したりして3月14日に纏めて、組合側に提示し会議の日程を決めることとしました。しかし3月11日大震災発生により、纏めの会議は延期されました。原案がまとまった段階で、本会の理事会や定期総会の日程も決める予定でしたがこれも延期となりました。

東北新幹線の復旧を待って、5月12日のDVD委には原案修正や別案など3案が提出され検討を重ね、5月26日のDVD委で、最終案がまとめられました。

## 目次

DVD作製本格化へ	1
深刻な大震災・原発事故	1
17年度活動報告・収支報告	2
DVD作製の概要と シナリオ(案)要約	3-4
本会への問い合わせ	5
16回目の横浜の平和展	6
大震災で逝った友人を偲ぶ	6

### (別項要約参照)

今後、この原案をもとに映像作製のための脚本作りの打ち合わせが6月30日に始まり、戦没船DVD作製事業は一番重要な時期を迎えます。

従って本会の第18年度の活動の中心は、この「戦没船DVD作製事業」であり、各地で展開している「パネル展」共々、各位のご協力をお願い致します。

### 深刻な大震災・原発事故

3月11日の東日本大震災発生から百日以上が過ぎました。今日までの被災者は、死亡15,400余人、行方不明7,400余人と伝えられています。行方不明者の中には沖に流された人や、原発事故の立ち入り禁止区域で、発見されるのを待っている人もいるものと、心からご冥福をお祈りいたします。

この世界的にも有数の大震災は、東北から北関東に至る多くの市や町が、壊滅的な被害を受けました。特に大震災に追い打ちをかけた福島第一原発の事故は、住民の被害を深刻化させていますが、発生から4カ月近く経つのに、事故を終息させる目途も立っておらず、放射能汚染は海陸に広範囲に広がり、この事故を契機に外国では脱原発に舵を切りました。

にも拘らず日本の政府は安全宣言(6/18)を出し、停止中の原発再稼働を促しています。ここでは依然として「原発安全神話」が生きているようで、日本の原発の危険な状態は、一層深刻化しています。

### 第18回定期総会告示

戦没船を記録する会 会長 川島 裕

下記により第18回定期総会を開催致します。

### 記

期日 2011年7月21日(木) 14時  
場所 港区立港勤労福祉会館 和室会議室  
議題 第17年度活動報告・決算報告  
第18年度活動方針案・予算案  
第9期役員選出 その他

# 第17年度活動報告

## 組織の現状

本会の組織の現状は、会報の発送先個人が約100通で、10年10月の55号以来会報の発行が出来なかったため、会員の変化は把握できていない。

会費の収入は233,000円で、43人から送られてきた1万円も6千円3千円もすべて会費として処理し、特に寄付として指定された分を寄付金とした。今年の新加入は1人で資料の利用を望んでいる。

## 会報の発行

2010年4月10日第54号、同10月20日第55号の2回しか発行できず申し訳なく思っている。

## パネル展

例年通り横浜の「2010 平和のための戦争展 in よこはま」が6月21～23日の間、かながわ県民センターで開催され、参加した。

平和のための埼玉の戦争展は7月29日から8月2日の間、浦和市のコルソで開催された。また、静岡のパネル展はトラック島の戦争をテーマに8月に開催され、清水、焼津でも同様の展示が行われた。

なお、数年前から交流のある徳島の平和展から、パネルの作製提供の要請があり、本会所有の小型船の資料その他のコピー等を実費で提供した。

## DVD 作製委員会

第17年度の主要な活動であるDVD作製について8月30日の海員組合との第一回実務者会議の経過まで、本紙55号に報告済みであるが、海員組合の定期全国大会後の11月30日の会議も本会側の準備不足から進展が見られず、次の両者協議を3月初旬と決めただけであった。

本会はその後2月17日、3月14日とDVD委員会を設定し、3月中の原案完成を目指したが、3月11日の東日本大震災に遭遇し委員会開催を延期、海員組合にも再度会議の開催延期を申し入れ、本紙前ページ記載の経過を辿り、7月中には海員組合に、本会のシナリオ原案及び映像作製の脚本を添えて、DVD作製会議の開催を申し入れが出来るよう、準備を進めている所である。

## 収支報告について

従来の戦没船を記録する会の会計と、特別資金会計を、定期総会に報告の通り記録する会の会計に一本化した。具体的には特別資金を特別繰入金として繰り入れた(銀行預金70万円現金83,145円)。

そのためこの年度の収入は繰越金44万円余と会費・寄付金、事業収入=パネル作製費等と特別繰入金金の合計が1,474,055円であった。

支出では通信費は会報の発送を含む切手代等が約3万円、ホームページ維持費2、5万円。会議費は総会、理事会、DVD委員会の会場費で、港区の施設の使用料が半日1,700円なので助かっている。

印刷費は主に会報のコピー代。機材整備費はパソコンのソフト購入など。事業費は横浜、埼玉のパネル展参加分担金各2万円と展示品宅配料金。

交通費はDVD委員会の本会のみと組合との会計7回209,890円、展示会2か所42,460円と事務局交通費など。消耗品雑費は会議の御茶代、監査謝礼、香典、プリンタインク代その他諸々。

## 戦没船を記録する会 収支報告書

2010年4月1日～2011年3月31日

### 基本会計

科目	収入	支出	合計
前年度繰越	152,000		152,000
入金その他			
合計	152,000		152,000

### 一般会計



科目	収入	支出	合計
前年より繰越	442,855		442,855
会費	233,000		233,000
寄付金	7,201		7,201
事業収入	7,850		7,850
特別繰入金	783,145		783,145
雑収入	4		4
収入合計	1,474,055		1,474,055
諸費		62,802	62,802
会議費		24,420	24,420
印刷費		10,300	10,300
機材整備費		13,511	13,511
事業費		44,650	44,650
資料作成費		6,850	6,850
展示会費		1,574	1,574
旅費宿泊費			
交通費		296,820	296,820
消耗品・雑費		36,025	36,025
支出合計		496,952	496,952
次年度繰越			977,103
総計			1,474,055

### 繰越金内訳

基本会計	金額	一般会計	金額
現金		現金	85,317
振替貯金	2,000	振替貯金	160,345
銀行預金(労)	150,000	銀行預金	700,000
		銀行預金	17,140
		郵便貯金	14,301
合計	152,000	合計	977,103

会計監査

2011年5月24日

小島 久子   
桑島 直矢 

戦没した船と船員の記録  
DVD 製作の概要とシナリオ (案)  
戦没船を記録する会

1、製作の概要

目的：第2次大戦により戦没した船と船員の史実を後世に残し、海を再び戦場にしない願いと永遠の平和を望む心を海を志す若人に伝える。

内容：第2次世界大戦の前段から敗戦に至るまで、戦況の流れに沿って戦没船と戦没船員を主体に動画・写真・地図・図表等を映写しながら、悲劇の歴史をナレーションで若人にも分かり易いように語る。随所に戦火をくぐった船員の体験談を挿入する。

(中学校上級・高校生が理解できる語彙による語り言葉にする) - 以下略 -

2、シナリオ構成

DVD 仮題：海なお深く (副題：知られざる戦没船と戦没船員の記録)

2、資料編 (連続再生、一時停止可能とする)  
戦没船を記録する会が収集した資料 (写真、図、表 etc) - 以下略 -

3、本編各シーンの要点

①イントロ

(DVD 作成の主旨。戦争中に徴用・戦没した船舶と船員の地図)

徴用船舶=約 9,000 隻/900 万 GT、戦没船員=60,609 人

(前章 戦争へ=海運の発展拡大、船員の養成と徴用)

②海運の発展と航路の拡大

明治から太平洋戦争まで海運の発展を概観。トン数で明治初期の 100 倍、世界第 3 位の商船隊。

③船員の養成

明治から太平洋戦争まで、船員養成機関の急増を概観。開戦前の船員数 7 万 6 千人。

④開戦前の徴用体制

国家総動員法、臨時船舶管理法、船員徴用令、戦時海運管理要綱など、開戦前の準備状況概観。

(第 1 章 戦争初期、日本軍の進撃と船舶の被害 S16 年 12 月~17 年 5 月)

⑤ (戦局描写) 開戦、日本軍の破竹の進撃

真珠湾から南はマレー半島までの一斉攻撃、第 1 段作戦の緒戦の勝利。

⑥ 12 月 8 日の上陸作戦、最初の商船被害

陸軍による南洋諸島一斉上陸作戦。海南島を出港した淡路山丸、佐倉丸の撃沈。

⑦船員に対する軍部の差別意識

特に下級船員は軍馬・軍犬・軍鳩以下の扱い。「輜重・輸卒が兵隊ならば蝶々蜻蛉も鳥のうち」

⑧急速な戦線拡大、占領地拡大

補給・増援なく次々玉砕。南方占領と石油、ゴム、などの資源獲得。南方からの輸送開始と輸送船の撃沈、船員の犠牲。

⑨無制限潜水艦攻撃

米軍の潜水艦作戦の実態と大量の被害。日本の軍事輸送・物資輸送を壊滅的に破壊。

⑩鯉鮪漁船に徴用令、米軍の東京初空襲

東京空襲に対する漁船の監視活動。護衛がない広海域で多くの犠牲。

⑪船舶と船員の一元管理機構=船舶運営会

皇国海員同盟、海員組合解散・日本海運報国団の結成、船舶運営会に至る船員徴用の実態。(第 2 章 戦線の拡大、追いつかない船の建造と船員の急募 S17 年 5 月~18 年 9 月)

⑫ (戦局描写) 南太平洋への戦線拡大

第 2 段階の作戦開始。ミッドウェイ島奪取の無謀作戦で空母 4 隻喪失。ガダルカナル島上陸。

⑬ガダルカナルの死闘

鬼怒川丸、山月丸など 9 割死亡し帰還僅か 27 名。喪失 50 隻 24 万 GT。

⑭ダンピールの悲劇

武器弾薬、食糧を断たれた日本軍守備隊玉砕。81 号作戦、旭盛丸沈没、ソロモン海の戦死。

⑮遅すぎた海上護衛総司令部の創設

護衛なき商船隊の大量被害。旧式、低速力の日本軍。米軍の制空・制海権確立。

(第 3 章 米軍の反転攻勢、日本軍敗退と船舶・船員の壊滅 S18 年 9 月~20 年 8 月)

⑯ (戦局描写) 米軍の反転攻勢に敗退する日本軍

日本軍の相次ぐ敗北。鍋・釜供出、女学生の勤労働員、学徒出陣、神風特攻隊、総玉砕作戦へ。

⑰サイパン島へ決死の輸送

資材、労働力の枯渇で造船計画達成できず、粗製乱造の戦時標準船=「棺桶船」。第 6 蔵王丸機帆船隊、第 1 日の丸のみ帰還。米軍サイパン島上陸に日本軍玉砕。絶対国防圏の崩壊。

⑱少年船員の死

戦時下の船員養成の拡大。各地に商船学校、海員養成所設立。3 カ月の教育で少年を徴用。第 5 はあぶる丸 91 名のうち 48 人が 19 歳以下全員戦死。14・5 歳の少年が数ヶ月で戦死。

⑲レイテ島への強行輸送作戦

武器弾薬や食糧を陸揚げ出来ず、高津丸、香

椎丸等次々沈没。生還者わずか2,500名。

⑳何時も全滅された特攻輸送船団  
米軍日本軍基地を空襲、米第3艦隊艦載機と航空戦大敗北。戦艦武蔵等喪失、以後敗退続く。

㉑石油輸送のヒ81・ヒ87船団の壊滅  
空母2隻・20隻の護衛艦隊で大輸送作戦。香港をただ1隻出港したさらわく丸も触雷し全滅。

㉒単独航海のせりあ丸奇跡の生還  
船長判断で単独航行のせりあ丸門司に帰還。強権的に船団を統制する軍と船員の相克。

㉓沖繩への補給船団全滅  
米軍の全国土大空襲、沖繩への決死の輸送、タカ604船団全滅。疎開者を乗せた対馬丸雷撃。

(終章 敗戦後の抑留、機雷の海、逃げ帰り船、引き揚げ輸送 S20年8月～24年3月)

㉔(戦局描写) 敗戦、無条件降伏と占領軍の進駐

ポツダム宣言、広島・長崎への原爆投下、ソ連の対日参戦、玉音放送、マッカーサー上陸。

㉕機雷の海の引揚輸送・マッカーサーの乗船命令

640万人の引揚げ、1946年末まで500万人輸送。室戸丸や練習船大成丸の触雷大量死亡。

㉖外国人戦没船員

未解決の朝鮮・中国・台湾の船員に対する戦後処理、補償・遺骨塊集問題。

㉗終わりに(民間還元から朝鮮戦争、湾岸戦争、ソマリヤ沖海賊まで、船員の戦後を概観)

船員にとって平和な海の重要性、戦没した船と海員の資料館に触れる。(概要編 完)

注 1、作製の概要、2、シナリオ構成の - 以下 - 略は DVD の長さ、作製日程、配布方法や各章各シーンの時間割など、今後の協議によって決まるものは省略した。

#### 4、各シーンの内容詳細 (以下10頁続く)

(所与の時間によりカット・追加・修文する)

①イントロ (DVD作成の主旨。戦争中に徴用・戦没した船舶と船員の地図)

先の大戦では軍艦・軍用船を除いて1万4,769隻の民間船舶と、749隻の官公庁船が沈没し、乗組員6万609名が戦死した。陸、海軍人の死亡率21%に対して、船員の死亡率は30%、3人に一人が海の藻屑となったのである。あれから70年、月日は人の記憶をあいまいにし、悲劇の歴史は風化されようとしている。この映画は、知られざる戦没船と戦没船員の記録を発掘し、後世の若い人達に語り継ぐことによ

て、2度と戦火にまみえることのないよう海の永遠の平和と戦争のない社会を希求して作られたものである。

#### 前章 戦争へ=海運の発展拡大、船員の養成と徴用

##### ②海運の発展と航路の拡大

1968年明治維新と共に、日本は殖産興業、富国強兵策による近代国家への道を歩み、急速に欧米列強に肩を並べて行った。江戸時代の日本は和船という木造帆船ばかりだったが、明治政府は、外国から西洋式の大規模帆船を大量に買うと同時に、外国人の技師や高級船員を雇い、蒸気エンジンを装備した西洋式鋼船を作る官営造船所を次々と建設した。

またアジア諸国に進出する中で、江華島事変、台湾事変、西南の役などの軍事衝突に際して、軍需物資を輸送する商船隊の育成のため、莫大な補助金などの政府援助を行った。三菱財閥への官営船舶の払い下げは有名である。こうして欧米列強との競争に耐えうるまでに成長した海運会社は日清・日露戦争の軍需品輸送で莫大な利益をあげ、インド航路に続いてヨーロッパ・北米や豪州などの遠洋航路を次々と開設し主要海運国と肩を並べるようになった。

1914年に始まった第1次世界大戦の結果日本は、中国領土の権益を確保し軍を先頭に大量の国民が進出しただけでなく、世界的な戦争景気も相まって、欧州各国が手を引いた後のアジア市場、アメリカへの生糸輸出、欧州戦線への軍需品輸出を通じて、造船業・海運業は飛躍的に拡大し、多数の船成金も生まれる中で、パナマ航路開通による北米東岸や世界一周航路も開設し、第2次大戦開戦前の1940年には、汽船4600隻、600万トンを保有し、トン数にして明治初期の100倍に上る、世界第3位の商船隊を有するに至った。

##### ③船員の養成

明治時代に西洋型の機帆船や蒸気船を取り入れた時、日本には操船する技術がなかったため、イギリスやドイツなどの欧米各国から船長・機関長などの上級職員を多量に雇い入れざるを得なかった。しかし明治政府は富国強兵策の元で、早くも明治8年には三菱商船学校を設立して上級職員の養成を始めると共に、数年後には海員液済会という半官半民の普通船員を含めた船員養成施設を各地に作り、外国船員に頼らない自前の船員養成を始めた。(紙面の都合で以下略)

## 本会への問合せ

# 戦没者の戦没時の 状況を知りたい

### 問合せ A

戦死者の遺族関係の一人として、戦没船**東隆丸**(三光汽船)に関し下記関連の資料を提供頂ければ幸いです。

- (1)沈没の時間(何時何分頃に攻撃されたか?)
- (2)沈没時の乗組員の氏名、特に私の伯父が確認できる資料。
- (3)その他どんな小さなことでも。

### お知らせ A

#### 1、東隆丸について

船舶所有者=合資会社山本商店(1942年)→三光汽船(戦没時)、船舶番号=13176、船種=貨物船、大きさ=1,992総トン、呼出符合=J BHC、竣工・地=1889年7月英国造船所、船籍港=神戸

#### 2、東隆丸戦没時の状況

1945年5月2日、米潜水艦レイトンの雷撃により、37-24N 123-50E(朝鮮西岸大青島西南西70km付近)で戦没、乗組み船員29名(注:35名=朝鮮人5名、台湾人1名を含む)との資料もありが戦没した。

#### 3、東隆丸戦没者・乗組員名簿

貴殿と同姓の方がおられますので、関係資料をお知らせします。個人情報に関連もあり他の方の名簿等は省略しますが、必要あればご連絡ください、事情によっては部分的にお知らせ出来るかも知れません。

### 問合せ B

私の叔父が東亜海運の**盛京丸**で戦没したときいています。盛京丸について分かっていることを教えてください。

### お知らせ B

#### 1、盛京丸(SEIKYO MARU)

船舶番号=28068、船種=貨客船、船舶所有者=大阪商船→1939.8.12東亜海運(東京)設立に伴い同社に移籍、竣工・地=1921(T10)4月大阪で竣工、大きさ=2,565総トン、呼出符号=J F K A、船籍港=大阪→東京。

#### 2、盛京丸戦没前後の状況

昭和1945年2月4日1600香港発上海向け(船客87名、石炭等を搭載)、1830横蘭灯台約8km沖で8隻(高山丸・廬山丸・暁勇丸他4隻)の船団を組み航行を開始、季節風が強く船団の航海速度は低下を余儀なくされました。

5日1200頃21-48NN 116-19E(香港ESE120マイル)において、「B-24」2機が高度100mで接近し銃・爆撃を開始、各船は機銃で応戦するも撃退できず。1204頃盛京丸が船橋に直撃弾を受け、器物の飛散と共に瞬時に沈没。船員30名・船客56名・警戒隊1名が戦没しました。

1210頃高山丸が2発の直撃弾を受け火災発生、総員退去。この頃敵機が退去したので、廬山丸が遭難者の救助を開始。

1510頃、敵機2機が来襲、1515頃廬山丸も被弾し数分後に戦没。海上に脱出した者も機銃掃射を受け多数の船員が戦没しました。

### 問合せ C

太平洋戦争中**弘和丸**という船で、私の親戚の人が戦没したそうです。弘和丸について関係あることを知りたいです。また弘和丸の写真を入手できないでしょうか?

### お知らせ C

#### 1、弘和丸について

船舶番号=29818、船種=貨物船、船舶所有者=北海船舶、大きさ=4,520総トン、長さ=112.7m、幅=15.8m、深さ=8.5m、船質=鋼、船籍港=神戸。

2、1906年9月7日英国のCartsdyke造船所で第275番船として進水、竣工。9月16日コモンウェールズ汽船に売却。1928年佐藤商會が買船、「第5厚田丸」と改名。1931年塩田商事が買船、「弘和丸」と改名、1931年北海船舶に移籍。

1943年9月22日横浜発宇品向け航行中、23日0457頃、米潜水艦「USS Harder」の雷撃を受け、34-20N 137-05E(三重県大王埼灯台70度17km付近)に於いて、右舷4番艙に続いて機関室にも被雷、0500沈没し、船員17名が戦没しました。

沈没時弘和丸は、軍に徴用されていない一般商船として、「大神丸」(5,959総トン、積荷なし)と行動を共にしておりましたが、大神丸は3発被雷し急速沈没、戦没船員は1名となっています。

3、本会で把握している戦没船の写真は1,400隻分

## 16 回目の横浜の平和展

小山内美江子さんの講演も

横浜の「平和のための戦争展」は 1995 年、横浜大空襲から 50 年の節目の年にあたり、横浜の戦災・空襲の実態について再認識すると共に当時の市民生活や戦争とのかかわり、その後の横浜の再建、復興等を振りかえり、市民一人ひとりが平和の尊さを改めて考え、豊かな未来を切り開いて行くため「戦後 50 年横浜平和記念展」を中区大通り公園の横浜技能文化センターを会場に、5 月 29 日の横浜大空襲の日から 1 週間開催されたのが最初であります。

しかし、横浜市主催の展示会は最初の一回限りで、翌 96 年からは市民団体が中心になって開催するようになりました。

生まれたばかりの「戦没船を記録する会」は、この展示会に最初から参加して来ました。また、これとは別に、神奈川県主催の平和展が、鎌倉芸術館や山下公園前の県民ホールで開催され、2 回とも参加しましたが、右翼の妨害が激しいため、県がこの平和展を中止することとなりました。

「平和のための戦争展」も同じように右翼の妨害を度々受けましたが、これに屈することなく継続して今年で 16 回目を迎えました。ここ数年は右翼が諦めたのか静かになっています。

今年の「2011 平和のための戦争展 in よこはま」は 5 月 29 日午後、実行委員長で脚本家の小山内美江子さんの挨拶と講演「いのちの尊さを考える」でスタートを切りました。中学生たちの朗読劇「空が落ちてくる―横浜大空襲 2」の熟演は、雨の中を来場してくれた人たちの胸に深く訴えるものがありました。この会場には、海員OBや元副組合長の片岡



さんなど 5 人が参加してくれました。

かながわ県民ホールでのパネル展は、会場予約の都合で 6 月 2～5 日の開催となりましたが、こちらの会場にも鷗友会のメンバーや海友婦人会の皆さんにも大勢参加して頂きました。（吉田 敏長）

## 震災で逝った友人を偲ぶ

大震災が起きて何度電話をかけても、ツーツーという音しか返って来ませんでした。彼は東松島市野蒜に住んでいて、市の面積の半分以上が津波に流されたと報道され、仙石線「野蒜駅」の近くの線路わきに、列車が 2 両ずつ直角に横転している新聞写真を見たが、何時も元気だった彼だから、必ず連絡が取れるだろうと思っていました。3 月 31 日の新聞の死亡した人欄に手代木一男さんの名前を、翌日の同じ欄に奥様の名前を見つけて、大きなショックを受けると共に、とても残念に思いました。

彼との出会いは私が機関員をしていた船に、彼が新米の三等機関士として乗って来たことで、それ以来何回か一緒に乗船しました。私が会社を辞めてからもずっと交流があり、船員を退職してからも船舶職員養成協会の会議で上京したからと会ったり、戦没船を記録する会の気仙沼の「漁船の太平洋戦争展」に来てくれたり、海上労働ネットワークの「解散総会」にも出席してくれました。何時かゆっくり語り合いたいものと思っていました。だから、何時になるか分からないが、行かれる様になったら、その地を必ず訪ねようと心に決めていました。

5 月 13 日に仙台に住む息子さんから、3 月 24 日に土台だけ残して 200 メートルほど流された家の中から遺体で発見され、唯一残っていた文箱のハガキの住所宛に出したと案内のハガキが届き、5 月 21 日の告別式に参列し、お別れをして来ました。

告別式が行われた松島町は、地震の被害はあったものの、地形の関係で津波の被害は微小で、死者・行方不明者は各 2 名、その東隣の東松島市は 1028 人 740 人(5 月 8 日)と格段の差に驚かされました。

手代木さんは高等商船に旧制中学 4 年修了で入学した秀才で、学生時代からセツルメントなど社会的活動に携わり、何回か務めた職場委員の時も何時も船員の立場を尊重し、穏やかではあるが一本筋が通っていて、周囲から信頼され、友人や後輩から親しまれた、私が心から尊敬できる友人を、大震災で失ったことを残念に思っています。（篠原 國雄）